

第6回 地域づくり専門部会 開催結果概要

- ◆ タンチョウの繁殖による地域の魅力向上を、地域振興につなげるための取組を議論

■開催方法：書面

■令和4年2月7日に10名の委員、2名のオブザーバーに資料を郵送



報告内容

(1) タンチョウの飛来・繁殖状況について

- 舞鶴遊水地内で1つがい
が繁殖し、ヒナが1羽生まれ
育て育った。
- 繁殖期間中、舞鶴遊水
地の一部を立ち入り制限
し、孵化から1ヶ月半程度
の期間、報道の自粛を依
頼した。



(2) 今年度の地域づくり専門部会の取組状況について

- 町内での出前授業や広報誌への記事連載、舞鶴遊水地を活用した環境学習イベントなどの普及啓発、町外に向けたパネル出展などの情報発信、民間事業者との連携による観光活性化等に取り組んだ。

(3) 来年度の地域づくり専門部会の取組計画について

- 来年度もこれまでの取組を継続する。
- 地域住民に向けた報告会や、民間事業者と連携した舞鶴遊水地を観光に活用する事業に取り組む。
- 舞鶴遊水地の立ち入り制限区域内に観光バスが進入する観光事業を検討する。検討に当たっては、タンチョウや近隣農家への悪影響を回避するよう事業内容を計画する。

【委員からの指摘事項】

- コロナの影響もあり、部会委員としての関わりが少なかった。取組は拡大しているが、部会での情報共有の場が必要。
- タンチョウ報告会は、以下の提案を検討し、より良いイベントとすることが必要。
 - ・ タンチョウの実際の動画の活用
 - ・ HTBのドキュメンタリ番組の上映
 - ・ 遊水地カード等ノベルティの配布
 - ・ 広報や新聞へのチラシ折込による広報
 - ・ 長沼タンチョウ・ガイドの話が聞ける舞鶴遊水地バスツアーの併催
- 取組に関する資金は行政を頼らざるを得ず、自由度が低い。資金確保対策として、基金などを作り、直接寄附を募る、商品売上の一部を取組に還元してもらうなどの仕組みを検討してはどうか。
- 農業との連携の取組が必要。タンチョウがいる環境にやさしい農業により、安心・安全な作物を生産して長沼町をPRすることが考えられる。農協や環境保全型農業推進協議会等の取組主体が考えられる。

【オブザーバーからの意見】

- 旧長沼舞鶴小学校を環境教育と保全活用及び共生の先導的機能を担うセンターとして整備してはどうか。
 - ・ エコツーリズムの拠点
 - ・ タンチョウの成長情報の発信
 - ・ 鳥の駅マオイトー管理運営
 - ・ 観光資源の地域ルール設定と運営

総括

小磯 修二 部会長

- 民間事業者との連携も進み、タンチョウをシンボルにしたまちづくりの取組の輪が着実に広がってきていることを感じる。
- これからは、長沼町のまちづくり政策、特にSDGsや脱炭素に向けた長沼町の取組との連携も大切。